

平成 21 年度みんぱく若手研究者奨励セミナー発表
「先住民と都市開発：アリゾナ州の都市化とパスクア・ヤキを事例として」要旨

水谷裕佳

私は 2003 年度より、米国アリゾナ州南部トゥーソン市に居留区を持つ先住民族のパスクア・ヤキ (Pascua Yaqui) について研究を進めてきた。本発表では、19 世紀終わりから 20 世紀にかけて、トゥーソン市周辺が米国の領土となり、都市化するに従って、彼らがどのように米国社会に受け入れられてきたか、さらに、1970 年代に起こった彼らへの居留区譲渡と米国先住民認定と都市開発と関連したか、という主に 2 点について論じる。

パスクア・ヤキは、メキシコ北西部から米国南西部にかけて伝統的に居住する先住民ヤキ (Yaqui) の一部である。ヤキは、ユト・アステカ諸言語の一つであるヤキ語 (Yoeme) を民族の言語とし、鹿の踊り (Maaso) や仮面の踊り (Pahkola) を初めとした伝統舞踊や、毎年 2 月から 4 月のキリスト教復活祭の時期に行われる一連の儀礼でよく知られている。彼らは、17 世紀にイエズス会宣教師によって建てられた宣教村に居住するようになり、自らの世界観をキリスト教の儀礼の形式を使って表現するようになった。彼らは 2 世紀に渡ってメキシコ北西部ヤキ河に沿った宣教村で静かに暮らしていたが、1890 年代に状況は一変する。メキシコの独裁者となったポルフィリオ・ディアスが、20 年間の間に 4000 人以上のヤキを虐殺した。そのために、ヤキの一部が国境を越えて米国に政治難民として流入したのだった。彼らは米国政府による 1978 年の先住民認定の後、パスクア・ヤキと呼ばれるようになり、トゥーソン市に居留区を得た。

パスクア・ヤキの人々は、国境から近い街の中で最も大きいトゥーソン市の空き地に集落を形成した。当時トゥーソンをはじめとするアリゾナ州南部は半ば「未開の地」であり、持ち主がよく分からない空き地は多く見られたようである。しかし、米国の別の地域から国内入植者が移り住み、人口が増加すると、街の中心に近い場所を占拠するヤキの人々が問題視され始めた。同時に、パスクア・ヤキの人々は、労働や教育を始めとする様々な場面で、ヤキ以外の人々と接するようになった。また、観光産業においては、ヤキの人々は格好の観光の目玉として取り上げられた。本発表では、まず、1920 年代から 1940 年代にかけての、トゥーソン市の拡大とパスクア・ヤキの人々の米国社会との出会いについて、主にアリゾナ歴史協会に残されている新聞や雑誌の記事、写真などを通じて、考察を行う。

時代が少し進み、1950 年代になると、パスクア・ヤキの人々を市外に移そうと考える人々が現れ始めた。上に書いたように、パスクア・ヤキが居留区を得たのは 1970 年代 (居留区としてではなく、ヤキの人々に特別に土地が提供されたのは 1974 年、その土地が正式に居留地となったのは 1978 年である) であったが、私の現地での資料収集の結果からは、それよりもかなり早い段階において、現在の居留区の場所が有力な候補地として選定されていたことが考えられる。居留区は、トゥーソン市の市内にありながら、市街地からは外れた

場所にある。さらにその場所の近くには、砂漠の動物を生きのまま展示する博物館や、西部劇のセットをつかった遊園地などがある。観光客が多く利用する空港も、居留区が位置するのと同じ市街地の南側にある。私は、トゥーソン市南側は、観光産業の諸施設が集められた地域として開発され、パスクア・ヤキの人々は観光客への見世物の一部としてその地域に移住させられることになったのではないかと考えるようになった。この点について明らかにするために、2009年8月に、アリゾナ州トゥーソン市の資料館や図書館において資料収集を行う予定である。本発表では、得られた資料について論じる。

トゥーソン市の拡張とパスクア・ヤキの関係について考察を行うことは、米国南西部の先住民と都市や開発を理解する一助となり得る。現在、米国南西部の多くの先住民の人々は、例えば国立公園が居留区の中にあるために、ツアーの実施やホテルの経営から利益を得て民族の人々に分配することができたり、集落や儀礼の公開についても、彼らが主導して行うことができたりする。しかし、米国南西部が急激に開発され都市化した20世紀初めから半ばにおいては、先住民の人々は開発や都市化に関して考えを表す機会はそれ程与えられてこなかった。この時期の米国南西部における開発や都市化と先住民の人々の関係性を考察することは、開発や都市化とエスニシティの問題に寄与すると共に、同地域の先住民の人々が組み込まれた米国主流社会による先住民の人々の経済的、社会的支配について明らかにするために重要であると考えられる。一方、パスクア・ヤキの人々の視点から開発や都市化について記された資料は少なく、彼らがそのような開発現象をどのように理解し、それにどのように対処しようとしたのかを明らかにできる方法に関して、質疑応答の時間に参加者との意見交換を行いたい。